

2019 Phuket King's Cup Regatta 参戦レポート

SIESTA 島津

始まりは9月に届いた一通のメールからだった。

「12月 タイキングスカップ クルー募集」

沖縄のレースで一緒に乗っている、僕らが塾長と勝手に慕っているプロセーラーのK氏からだ。早速ネットでKing's Cupの日程を調べ、3分後には「行きます」と返信したのでした。

このHPをご覧になってる方であつたら Phuket King's Cup (<https://kingscup.com>) のことをご存知の方もいらっしゃると思うが、ここで簡単に紹介すると、セーリングが趣味であったタイ前国王の誕生日にあわせて毎年12月に開催されるタイ国王杯であり、アジア最大級且つ権威のある国際ヨットレースである（大会HPより）2019年で第33回大会となる。



ちなみに class も細かく分かれており TP52 のフリートとなる IRC class0 から IRC class3 までのレーサー部門。ホワイトセイル中心のクルージング部門と大きく2つに分かれ、参加艇もイギリス、エストニア、ロシア、USA、ニュージーランド、オーストラリア、アジア各国と多岐にわたってる。

今回私が誘われたチームは逗子マリーナを拠点にミドルボート中心に活躍する CharChan チーム。参加する返事はしたものの、その後オーナーと会う機会があり、「艇は在ランカウイのオーナー所有の First40.7、ポジションはフォアデッキ、K 塾長含めプロセーラーが数名乗る事、IRC class1 にエントリーし同クラスにエントリーする誰もが知ってる関東の強豪チーム K に勝ちクラス優勝を目標とする事」などを聞き、King's Cup=ビール片手にのんびりレースと思っていた私は早くも吐きそうになったり、せめてもとジムに通ったり、壱岐レースで吹かれているうちに Phuket 行きの当日を迎えたのでした。

Phuket へは福岡空港より Bangkok 経由で6時間ほど、11/29に現地入りし先ずは2日間かけて艇の整備、チューニング&練習。12/1にセール計測&プラクティスレース。12/2より6日間、1日

間のレイデイを挟み最大 10 レースの Regatta となる。事前に配布されたコース Book によるとコースはブイ廻り、ディスタンス含めて 50 数パターン！眺めているだけでも具合悪くなりそうなボリュームです。今回の Regatta では基本ソーセージコース 1 日 2 本（忘れもしないコース No.23！）がメインでしたが、3 日目だけ上下ソーセージ 1 レース消化後にディスタンス 30NM という鍛えられた日もありました（笑）風も時期的に安定しており、15～20kt と絶好のレース日和。（最終日のみブローで 30kt オーバーのコンディションにて 1 レース消化、我々のチームもスピンハリ破断、ジェネカーバースト、バングがぶっ飛ぶなどかなりのサバイバルレースとなり、艇もクルーもボロボロに、）

又、ほとんどの日で 15 時にはビーチに帰れる様レーススケジュールが組まれており、（会場となる Phuket KATA Beach にはハーバー施設がなく、艇はアンカリングしビーチよりタイ特有のドラゴンボートにて行き来となります）レース後にはビーチ沿いのレストランに直行し、冷たいビールとタイフードで乾杯です。又、連日様々な場所でパーティーが準備されており、その日のレースの表彰が行われます。当然参加してる各国のセーラー達が飲んで食べての大騒ぎ！国籍は違えど同じセーラー、話題は尽きません。その日のレースを振り返りながらいろんな国のセーラーと騒げるのも国際レースの醍醐味かも知れません。流石に IRC class0 の TP52 のクルーはデカイ！187cm ある自分が生まれて初めて小さく感じました、（笑）



国際レースを実感したエピソードをもう一つ。第 6 レーススタート直前に上 1 からスタートしようとした我々に風下の AUS 艇から「急激なラフィング」を受け泣く泣くりコール。AUS 艇とは十分なルームがあったにも関わらず「進路妨害」としてプロテストを受けてしまいました。その段階で我々は暫定 2 位、同じく暫定 8 位の AUS 艇が抗議を出した意図が私には理解出来ません。結果的にノーケースとなりましたが、国際レースのシビアさを実感した出来事でした。



そんなこんなで、レース⇒ビール⇒タイマッサージ（たまにプール）⇒パーティー（極たまにゴーゴーバー）と、セーラーにとって夢の様な 6 日間過ごした後、最終日にはタイ国王主催の RoyalAward です。さすが、王族が来るだけあって会場は自動小銃を携行した軍人が警備をするなか、参加者の我々も厳重なボディチェックを受けるなど厳戒体制です。レースも全日程 8 レースを消化し、我々 CharChan チームも 5-5-2-6-1-3-1-3 と後半調子を上げていき、目標であった強豪 K チームを打ち負かし見事 IRC class1 で 2 位準優勝！タイ国王よりプレートを賜りました。「ああ、ヨットやってて良かったなー」としみじみ思える瞬間でした。



そして、何よりもセーラーとして最高の 10 日間。人生の中でも記憶に残る Regatta を経験したのでした。

以下、情報として記します。

*チャーター料に関しては、パーティーなどで他艇から聞き出した情報であり、大体の目安として下さい。 EntryFee は大会 HP より。 1THB（タイバーツ）≒3.6 円

Entry Fee	アーリーエントリー	30,000 THB/ 艇	
		スタンダードエントリー 35,000 THB/ 艇	
		5,000 THB/クルー（1 名） パーティー代込み	
チャーター	IRC ボート	TP52	200～300 万円
		プラトウ 25	70～100 万円
	ホワイトセール	ベネトウオセアニス 40	100～150 万円
		ヤマハ 30	50～70 万円
渡航費	福岡発着 LCC	約 6 万円前後	
宿泊費		数万円～数千円?? / 1 泊	

IRC class にチャーターで参加となるとさすがにキビシイかもしれませんが、40ft くらいのクルーザーボートを 10 名程度でチャーター、となれば参加も現実味あるのではないのでしょうか？
あとは忙しい 12 月に 10 日間ほど休める勇気があるかだけ！（笑）
間違いなく Sailing Paradise が Phuket にはあります。